

大規模土砂災害に備えた合同防災訓練を開催しました! ～山形県内初の「学習型」防災訓練～



実施日時：平成25年2月15日（金）
13:00～16:00

実施会場：おぐに開発総合センター

参加者：45名（訓練参加者31名、見学者14名）

訓練参加者内訳

北陸地方整備局（1名）、飯豊山系砂防事務所（13名）
飯豊山系砂防スペシャルエンジニア（3名）
山形県庁（3名）、山形県置賜総合支庁（6名）
小国町（5名）
見学者（新潟県、新発田市、小国警察署、消防署他）

小国町内で大規模土砂災害が発生した想定で訓練を実施しました。
訓練は学習型訓練形式により国・県・町等が参加の合同訓練

各機関、緊張感をもって本訓練に取り組んでおり、他機関の災害時の対応や役割を理解するとともに、各機関が連携し対応することの重要性を学ぶことができた訓練となりました。





発刊年月日	平成25年2月16日(2013年)	
新聞名	山形	新聞
朝刊・夕刊・日刊の区分	朝	刊
地方紙・全国紙の区分	地方	紙
掲載ページ	社会27	面に掲載



土砂災害想定し訓練

飯豊山系砂防事務所 県内初「学習型」

小国町の国土交通省飯豊山系砂防事務所(上原信司所長)は15日、おぐに開発総合センターで、大規模土砂災害を想定した学習型合同防災訓練(図上訓練)を実施し写真。参加者は現場状況への的確な対応と関係機関の緊密な連携の大切さを再認識した。

同事務所、県置賜総合支庁、小国町、砂防ボランティア団体「飯豊山系砂防ス

ベシャルエンジニア」の防災担当者約40人が参加。司会者が災害シナリオに沿ってどう対応するか質問し、参加者が回答しながら進む「学習型」の訓練は県内初だという。町内で直下型地震が発生、JR米坂線伊佐領駅付近の大規模土砂崩れによって横川が埋まり土砂ダムを形成、決壊すると付近の集落に被害が出る」との想定で行った。

司会を務めた砂防ボランティア整備推進機構(東京)の担当者は「住民からの通報で小国町はどうか対応するのか」「町からの連絡で置賜総合支庁は」などと各機関に次々に質問した。参加者は思案しながら迅速に答え、土砂ダムの緊急調査、住民への避難指示、ダムの排水処理などについてそれぞれの役割を確認。どのような事態にも対応できるような普段から考えなければならぬと再認識した。「各機関の考えや動き方が分かり、連携強化に向けてより細かな情報を互いに発信しなければならぬ」と感想を述べていた。

訓練参加者の声 (一部)

- ・ 関係機関が集まって土砂災害の対応について訓練できたのは有意義だった。
- ・ 学習型訓練は他機関の対応や取り組みが確認でき勉強になり良かった。
- ・ 大規模土砂災害の経験が無く、対応の流れがわかり良かった。
- ・ 国道事務所やJR、警察や消防などの参加もすればより良いものとなると思う。